

令和6年度 第2回富田林市金剛地区再生指針推進協議会 会議録

富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室

日 時： 令和7年2月13日（木） 10時～12時

場 所： すばるホール4F会議室（旧秀月の間）

出席者：

【委員】：11名

増田 昇（会長）、中井 二郎（副会長）

友田 研也、溝口 俊則、吉村 明、小野 達也、

加茂 賢一、松本 新、占部 訓司、今西 佳子、森木 和幸

欠席者6名

新里 恵美、喜多 忠、廣崎 祥子

大山 美里、市川 智久、品田 忠司

【事務局】：6名

〔富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室〕

塚本 隆之（室長）、松本 憲昌（室長代理）、竹川 智也（主査）、小川 公也（副主任）

〔特定非営利活動法人きんきうえぶ〕

寺田 誠（コンサルタント）、妹尾 美千代（コンサルタント）

【会長が認める関係者（設置要綱第5条第4項）】：0名

開催形態： 公開（傍聴人：1名）

次 第： 1. 開会

2. 案件

（1）金剛地区再生指針の取組について

①地域のまちづくり活動について

②市が進める取組について

（2）その他

3. 閉会

議事録：全文筆記

1. 開会

(事務局：塚本)

- ・設置要綱第5条第2項により協議会が成立していることの報告
- ・議事進行にかかる留意事項等の確認
- ・資料の確認

2. 案件

(増田会長)

皆さんおはようございます。今年度第2回の富田林市金剛地区再生指針推進協議会（以下、「協議会」とする。）でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、早速次第に基づきまして進めていきたいと思っております。まずはじめに金剛地区再生指針の取組について、まず資料1. (1) 金剛地区まちづくり会議（以下、「まちづくり会議」とする。）についてご説明いただければと思います。

(事務局：寺田)

資料1. (1) まちづくり会議について

(事務局：寺田)

資料1. (2) -①わっく Café

(事務局：寺田)

資料1. (2) -②金剛マルシェ～地場産やさい市～

(友田委員)

資料1. (2) -③寺池公園等を活かしたまちづくりの会

(事務局：妹尾)

資料1. (2) -④∞KONROOM

(増田会長)

ご報告ありがとうございました。ここで一度ご意見・ご質問を受けたいと思っております。まず資料1. (1) まちづくり会議についてご意見・ご質問ございますでしょうか。

(事務局：小川)

ここで補足資料がございます。

(増田会長)

配っていただいた資料は何でしょうか。

(事務局：寺田)

まちづくり会議に諮る前に、まちづくり会議運営会議を開催しているのですが、その中の参加者から現状のまちづくり会議のあり方について意見があり、本日同会議に出席されている友田委員からもまちづくり会議の課題に対しての意見や提案がありましたので、それらを一括として友田委員が取りまとめ、資料作成したものとなります。友田さんの方からこの資料について補足等あればお願いします。

(友田委員)

資料について説明させていただきます。今のまちづくり会議も長いこと運営していますと、色々課題が出てきております。まず自治会との関係が先ほども言ったように希薄だということ、あとプロジェクトが進むにつれて、広域的な連携・調整、意識共有が大事になるのですが、そういったことを調整する場がないということが課題のため、地区全体として自治会との関係性をどんどん作っていくということが必要です。

その方法として先ほど説明した防災グリーンフェスタという形を提案します。自治会と連携するという話で、我々の取組の中に自治会が入ってきてほしいというわけではなく、我々が地域と関わる方法として、小学校区ごとに校区交流会議があるので、そこに我々が入り、自治会と連携していく、その中で提案・共有をする。プロジェクトには熟度があるため、熟度に応じて自治会と連携していくというのが一案です。あとは参加メンバーの固定化についてですが、若い人がまちづくり会議に来て、次回からは来ないといったことがあり、会議の目的や会議の意義といったところが不明確であることが問題だと思っているので、会議目的を明確にし、会議体としての意識・意義を高めないといけない。

例えば、4月会議ではプレイヤーの成果報告及び年次計画とフォーラムを同時に実施するとか、9月会議では次年度の取組予定の報告であるとか、全体としての予算がどれくらい必要かどうか議論をして必要であれば市に対しても予算要望していくことにより、まちづくり会議の意義や課題、目的とかを明確にしていく必要がある。もう一つの課題は包括的な連携ができていないことであり、包括的な議論をしていかなければならない。これについては年次計画を共有したうえで、市と対話したり、必要に応じて予算を要望したりすることによって、包括的な連携を進めていく。狙いとしては市が折角組成したまちづくり会議のようなプラットフォームがありますので、まちづくり会議の位置づけ等は継承し、自治会との関係を作っていくことにより、裾野をどんどん広げていくと、さらに我々全体としてある程度まとまりのある方針を出せるようにして、公民学連携の取組について、地域が受け皿となれるようにしていけば良いのではという提案です。

次のページですが、まちづくり会議には各々様々な取組をしている団体が参加しており、各々が独立して各々が活動するという形は今までどおりで良いと思っているのですが、その活動に対して意義とか目的を明確に出していくことが必要です。主要となる活動内容としては先ほども説明したように、年次の事業計画で作っていくとか、市との事業とか予算の要望をしていくとか、そして事業推進をしていく。例えば、4月会議では成果報告や年次報告をしてフォーラムと同時開催する。9月会議では次年度の計画と必要であれば予算要望もしていく。ただ全体の話の予算要望の話は今

言ったとおりですが、各々個別的に全体と関わらない取組は今までどおり市長であったり、市議会議員であったり、行政に要望する。全体に関わる取組は包括的に連携していく。自治会との連携というのは資料下部にもあるように、校区交流会議というものがあるので、地域と連携したい時には各々の活動団体が、そこに入るという形をとりながら地域との連携をしていく。行政から委託を受けて、寺田さんに地域活動の支援をしていただいています、これは非常に大事だと考えておりますので引き続きお願いしたいと思っております。

ただ、我々だけでは知識が少なく、間違ったりもするので専門家ともっと頻繁に相談できる形、長期的な視点であったり、色んな事例であったり、そういうものを勉強させてもらいながら、頻繁に相談させてもらって中身を作っていく。そういう仕組みを入れていただきたいということ、補助金なんかも入れてやっていかなければならないかもしれませんので、モニタリング制度も必要かなと考えております。

すると、金剛地区の地価が下がらないとか、地価を維持できているとか、地価が上がっているとか、地価などを指標としながらきっちりと我々の成果が出ていることを可視化しながら取組んでいくことが大事だと考えていますので、モニタリング制度と専門家の派遣制度を入れていただくだけでも助かります。こういう全体のところをやりながら、金剛地区再生指針推進協議会や KLLP があるので、そういったところと連携できる体制作りを行い、規約とか会則をもった会議体にきっちりとする方が良いと考えており、そろそろそのレベルまで達してきたと思いますので、提案させていただいたところでございます。

(増田会長)

はい、これどう扱ったらいいでしょうか。これはまちづくり会議の議題であって、協議会の議題ではないかと思うのですが。

それともうひとつは、これは完全にまちづくり会議を継承ではなくて、衣替えするという提案です。もともとまちづくり会議というのはプラットフォームで情報共有をするということと、そこから何らかの行動起点となって、行動が発生したら、そこから独立してプレイヤーとして行動していくという形。だから、まちづくり会議というのはプレイヤーではないので、今の話で言うと、まちづくり会議をプレイヤーにしたいと、自分たちで予算をもって、何らかの活動をするということでしょうか。

(友田委員)

少し違います。説明不足ですみません。先程のスライドを投影してください。各々の活動は独立しており、まちづくり会議で情報共有などを行いながら運営していくというイメージです。現状のまちづくり会議では連携とかの話ができてないので、どういった協議をするのかと、また、市への予算要望も各々の活動する主体で予算要望すれば良いでしょうし、活動も独自であれば良いです。ただ連携するのに予算が必要となれば、連携する枠組の中で予算要望をするといったイメージです。

(増田会長)

予算をもつと、実行体になります。だからそうではないということです。それは色んなところで限界があるから、要するにまちづくり会議でプラットフォームを作ろうというのをこの協議会でも議論してきたし、まちづくり会議でもそういう定義で動いてきたと思います。それを完全に否定することだと思いません。

(友田委員)

否定するのではなくて、予算をもたなくてもいいのですが、連携するために、ここの会議の意義ってなんだろう、情報共有するだけではなしに、やっぱり連携しながら取り組んでいく。次のステップをどう考えましょうかという、次の議論ができるような場所にしていきたい。

(増田会長)

それはまちづくり会議のメンバー自身たちで何ができるかが重要。例えば、自治会の呼び掛けを行うとかであり、規則を作ることではない。まちづくりというのはもっと自走型、自分たちでできる範囲内でできること、それによって仲間がだんだん増えていけばよくて、実態として現在は増えていってない。

そこで、今提案されているハードウェアみたいなのを作ったとしても、仲間が増えていくことは決してない。だから、もっともっと自走するということを考えていかないと成立しないということになる。ようするに、この提案はまちづくり会議に実行体としての機能をもたせるために予算化し、専門家を張り付けて、まちづくり会議のメンバーは口を出すだけという構造に見えて仕方がない。

(友田委員)

少し違って、今我々は寺池公園を活かしたまちづくりの会っていう活動をしていて、その活動は自主的に動いていますが、相談したいときっていうのがあるので、先生方と頻繁に相談できる形にしてほしい、あくまで相談です。あと他の地域の活動と一緒にしたいっていう協議とかができる場にしていきたい。そして、自治会との連携とかそういった形については、まちづくり会議に入ってくださいというのは難しいでしょうから、折角できている校区交流会議と対話しながら広げていくという形で主体的な動き方というのはあんまり変わらないと思っていて、それをもう少し機動的に動くようにこういう形はどうかと思っています。

(増田会長)

その機動的っていうのはまちづくり会議に参加している皆さん方が動くということです。そうでなければ前に進まないということです。どれだけ絵を書いたとしても、基本的には皆さん方が動けるかどうかなんです。この提案は自分たちがこういうことに取り組みますという宣言であれば話はわかりますが、こんな風にしてくださいといった提案であれば違うと思います。

(友田委員)

我々がこういった形にしてはどうかと思っているので、主は我々です。若い子が入ってきたらや

りがいのある場所にしていくと、入ってきて提案すれば実現もできる、行政にも伝わる可能性があり、目的があって機会がある場所にしていくことはどうかと思っています。

(増田会長)

だからそれはまちづくり会議の中で議論すべき話で、まちづくり会議のメンバーがどれくらい本当に動いて、行動できるかという話で、行動の方向性を示しているだけであれば問題はないが、何かやってくださいというお願いであれば、基本的に動かない人は動かないわけです。なので、仕組みづくりではなしに、自分たちの行動指針としてこういうことを考えているのであれば理解はできる。しかし、この提案を見る限り、そろそろ今までのまちづくり会議を衣替えした方が良いという風に見える。

(友田委員)

私のイメージでは今までの形とあんまり変わってないという提案です。

(増田会長)

変わってないのであれば、これだけのことができるのかどうかということです。

(友田委員)

例えば、年2回まちづくり会議と同日にフォーラムをしましょうと。4月には今年度の計画の報告、9月には来年度の計画の報告を行い、予算が必要であればそれについて話をしましょうと。

(増田会長)

その時の予算というのがわかりません。まちづくり会議というのは実行体ではないので、まちづくり会議自らが何かするという実行体ではない。

(友田委員)

ですから、例えば今回の寺池公園においては、我々の方で伐木できない木を市にお願いして予算化してもらったので。

(増田会長)

それは寺池公園を活かしたまちづくりの会の活動の中だけで予算が必要になった話であるため、まちづくり会議は関係ない。

(友田委員)

ただこれが2つとか3つとか連携した時に、どうしますかという話をする場所がないので。

(増田会長)

それはまちづくり会議がそういった話をする場所です。

(事務局：寺田)

今友田委員よりまちづくり会議の充実について提案があり、増田会長からご意見あったかと思いますが、プラットフォームとしてのまちづくり会議があって、それを前提としてまちづくり会議としてどうしていくかっていうことの方角性をまとめた方が良くと先生よりご意見があったと思いますが、資料と友田さんの思いが伝わりにくくなってるので、もう少しこれらをまとめてから来年度まちづくり会議としてどのように動いていくかっていうことを増田会長にご報告させていただければと思います。

今の段階ですと、この提案資料と友田さんの思いというところで伝わりにくいところもあったりすると思うので、いったんまちづくり会議の充実として僕の方からも提案させていただいている内容と並行して、友田委員からの提案内容についても来年度まちづくり会議をどのような方向性で進めていくのかをまとめた上で増田会長に相談させていただければと思います。

(増田会長)

その時に、若い世代を巻き込んでいこうとすると、オープンチャットで参加している方もいらっしゃって、対面のまちづくり会議に出てきてもらおうと思っても、実態は出てきてないわけですよ。

そこで、オープンチャットなんかのバーチャルなプラットフォームと対面のリアリティのあるプラットフォームを両用しながら展開していかないと今の若い人たちにちゃんと届かないと思う。その辺のことも考えていくと、このような提案の構造ではないと思う。もっと情報交流なんかをどう考えていったら良いのかと、参加しましょう、連携しましょうと呼びかけることは良いが、そこになかなか結び付くまでのステップが必要で、むしろもっともっとオープンチャットみたいな形で子育て層の人たちに見てもらっているとか、そこから何か展開していけそうやとか、そういうところを充実させる方が良くと思う。この提案資料に記載のある会議体としての機能を整えて公民連携の産官学民連携の受け皿としての役割を担うとかになると、ハードな構造になるが、まちづくり会議はあくまでプラットフォームのため、受け皿ではなく、情報共有の場であるべき。

(事務局：寺田)

オープンチャットについては早い段階から活用を始めていたが、そこをまちづくり会議とどう並行して活用していくかということをしてきていなかったもので、リアルなまちづくり会議とバーチャルなプラットフォームであるオープンチャットの運用・活用方法を考えながら来年度取り組んでいきたいと思います。

(増田会長)

溝口委員、吉村委員が手を挙げられていますのでどうぞ。

(溝口委員)

今増田会長が言われたことがその通りだと思います。友田委員にはこのような資料を作っていたと思いますが、前々回のまちづくり会議でこの会議は機能していないのかなと、人が増えないし、メンバーが固定化し、関係者が増えないし、この会議も終わったんじゃないかという否定的な意見

も出ました。実際に会議の運営を見ているとそういう状態が続いています。

この資料に公民学連携と書いていますが、何かを成し遂げる会議ではないと思います。私自身自治会としての連携の話をまちづくり会議でしたことはないですし、町会や他の団体からしてもあんまり関係のない話だと思いますので、私は独自で自治会を進めています。なので、まちづくり会議の発足の時点に立ち返るべきではないかなと思います。金剛地区再生指針に基づいて、まちづくり会議を立ち上げてその中でいかに金剛地区を住みやすい形にしていくためにはどうするかという、夢があるようなまちづくりにしようじゃないかという発想で色々してきたわけであって、その中で色々成果も出てきたのも事実だと。そういう意味では固すぎる形にしまうと、どうしても重たくなり、参加する人が重荷に感じてしまう。結果、参加者が減ってきているというのが現状じゃないかと思うので、まちづくり会議の中でそれについて議論すべきじゃないかと思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。吉村委員いかがでしょう。

(吉村委員)

今聞いていた話の中で、組織の問題になってきたと思うので、僕一人ではできない問題になってきていると思っています。最初の報告の中であった自治会との連携の問題がそうなのですが、まちづくり会議で考えた企画とかが進めていくときに困ったなと思うことがあったので、問題提起しました。どういうことかという、寺池公園のプレーパークの宣伝として自治会にチラシ配付や掲示依頼に行くが、自治会長の理解によって対応が変わりまして、1回目のプレーパークの際は「チラシ配付してもいいですよ」と協力してくれましたが、2回目のプレーパークの際は「大変やから協力できない」と言われ断られました。お気持ちとしては高辺台からプレーパークをやっている寺池台まで遠いし、高齢でしんどいのにやめてほしいとのことでしょうかでも、僕らのやっている活動とかを知らせたいとか、広めようと思っても頭から拒否されてしまうので、自治会に対してどう伝えるかという点が苦労しているので、地域のことを考えておられる組織とまちづくり会議でやりたいことをもう少しスムーズに連絡を取れないかと思っています。これが組織の問題になるかわかりませんが。

(増田会長)

それは組織の問題じゃないです。それはまちづくり会議がどういう構造をとるのですか？という話です。自治会との連携については地道に連絡をとって、共感を得てもらわないといけない。友田委員の提案資料のように仕組みを作ったから連携が成立すると言ったものではない。連携をしようとするのなら、自分たちで校区交流会議等の場に足を運んで議論のきっかけや協力してもらったきっかけを作りにいくという形で臨まないといけない。連携が必須ですという風になるとうまくいかないと思います。この資料を見ると、連携作りの接点もすべて包括した構造にした方が良いとの提案になっており、金剛地区再生指針を見直してと言っているようなものです。

(吉村委員)

僕の言いたいのは別の構造を作ってくださいと言っているのではなく、連携をスムーズにしていくための情報が欲しいと思っています。

(増田会長)

だから、その話になると行動指針みたいな形で、どんな風にしてステップアップしていくのかみたいな提案の方が重要だと思います。さきほど寺田さんも時間の関係もあって、踏み込んだ議論ができないので次回にしましょうとなりましたが、次回議論する際に本日の議論を受けて自分たちでどういう行動をとっていかうかという話が出てくると、議論ができるのかな、あるいはサジェスションができるのかなと思います。何か小野先生ございませんか。

(小野先生)

友田さんの発言をなるほどなと聞いていましたが、増田先生もおっしゃられていましたけども、まちづくり会議がどうなっていくのかっていうところが基本のところだったので、そこをみんなでしっかり確認していくことが必要だなと思います。また聞いていて思ったことが、大阪市でまちづくり協議会というものを作ったのですが、これはいわゆる自治会や地域の団体なんかも全部入って活動していくという組織でして、そこを窓口にして、予算をつけてやったのですが、最終的にNPO化して地域で独立した組織体を作りたいという風になっていっていき、私はその辺りまでしか関わっていないので、その先のことは言えないのですが、それが最後どのようになっていっているのかを見ておいた方が良いのかと思いました。方向性としてそういうプラットフォーム的な在り方とNPO化して独立した形をとって自分たちで予算をもって動いていくっていう在り方と実際にNPO化しようと思ったときに増田先生もおっしゃられていましたが、誰がやりますか？というところで、地域の人が動ききれないというところがあったと思うので、そのあたりがどうなっているかという情報を入れておいて、ここをどうするかを考えれば良いと思います。

あともう一点は、校区交流会議の話が出たので、私はそっちの方に関わっていますので、これは地域福祉の考え、福祉の考え方なんですけども、福祉の考え方のイメージを変えるっていうところが一番重要なところで、福祉を幸福作りっていう風に新しい福祉を作ろうっていうことで、校区交流会議を始めていったという思いがあります。一応今16校区ありますけども、外から見ると吉村さんが言っているようにすごい形になっているように思うのですが、やっている方からするとまだまだ全然という感じで、どうなっていくんだろうという状態です。校区交流会議の方からすると、住民の人たちにこれをどうやって知ってもらおうかというところを意識しているので、このあたりがちゃんとつながっていくということが重要だと思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。時間の関係もあるので、これぐらいで1回目はおいときましょうか。次回もう一度今日の議論を受けて議論するということにしましょう。

(友田委員)

はい、ありがとうございます。

(増田会長)

ちょっと組織論に入っていくよりも、今色んなところでトップダウン的に色んな組織を入れてまち協を作りなさいとなっていますが、ほとんど機能していない。色んなメンバーを充て職で呼び出して、会議体を作りますけど、ほとんど実態として動かない。それがわかっていたので、金剛地区再生指針ではプラットフォームを作って、自走型でそこで意気投合した方が色んな活動の行動起点とし、母体みたいな形で子どもを生み出していく会議体を考えていた。いくつかの取組が生まれて自走型のプロジェクトとして動いているので、ある一定それは成功したと思っています。

むしろ、この問題としては新しいメンバーも含めて、次の新しいプロジェクトをどれくらい生み出していけるかというところが非常に大きな方向性なのかなと思う。それと、色んな既存組織との情報交流を具体的にどういう構造で情報交流していくのかみたいな戦略を立てる。そんな形かと思います。こんなに大きな絵を書いてもにっちもさっちも動かないというのが今までの実態で、何か副会長ございますか。

(中井副会長)

時間もないので、簡単に言います。まちづくり会議に参加している団体は寺池公園を活かしたまちづくりの会や、わっくカフェ、色々ありますが、これは金剛地区再生指針を作ってから生まれてきた団体がほとんどです。新たに生まれてきた団体というのはほとんどなくて、そういう意味ではまちづくり会議の中でも新たな参加者が出れば、新たな取組も出てくる可能性はあると思っています、それをまちづくり会議は目指していると思っていますので、増田先生もおっしゃられているように情報交換の場として運用していくのがベストで今の考え方として理想かなと思っています。

(増田会長)

ありがとうございます。私も含めて皆さんの思いを伝えましたので、少しもんでいただいて、次回議論するという事にしましょうか。それではちょっと急ぎですけれども、(3)の中に4つのプロジェクトが動いていますので順次説明いただければと思います。

(事務局：小川)

資料 1. (3) -①BBQ 社会実験イベント実施報告

資料 1. (3) -②大学連携 (KLLP)

(事務局：竹川)

資料 1. (3) -③金剛駅周辺のウォークアブルな空間づくり

(事務局：松本)

資料 1. (3) -④金剛中央公園の検討状況について

(増田会長)

はい、ありがとうございます。①から④までご報告いただきました。何かご意見・ご質問いかがでしょうか。

(吉村委員)

ウォークアブルビジョンのことについてですが、僕らがまちづくり会議なんかで色々と考えていることは、このウォークアブルというのをもっと広い範囲で考えていて、僕自身は高辺台1丁目に住んでいるので、すぐ横が藤沢台になります。そうすると、金剛地区には入らずに金剛東の地区に入るので、そういう観点から住民の立場で見ていて、高辺台は構想に入っておらず、外されているなどと思ってしまいます。今回は金剛駅まちなかウォークアブルなので外されていてもわかるのですが、高辺は金剛駅と関係ないと思われ、むしろ金剛東に近いのでこちらに関心を示していただけないということがありますので、何とか高辺台を活かせないかとずっと考えております。

僕の案として挙げているのは、ウォークアブルの一つの大きな目標は健康づくりだったと思っておりまして、高辺台を中心としたウォーキングができないかということを考えています。僕の家の前を歩いている方が案外いて、目標にして歩いているのが風土の丘となっているみたいです。

この間、30人以上で歩いているグループと話す機会がありまして、葛城中学校の裏に行くと、金剛三景がすべて見えて南河内がざっと見渡せるから良いとの意見がありました。僕自身も高辺台のそこが最大のポイントだと思っています。そういう点から考えても、そこを活かしたまちづくりをできないかなと思っているのですが、いつまでたってもそういう案がでてこないの、私案を作りました。やっぱり金剛の特徴を見ていると、まちなかウォークアブルの駅前のことについては目的地として金剛駅がありますよと言っているのですが、たしかにそれはそうだと思います。もう一方で、別の視点から考えると、別の目的地はできないかと考えたところが僕の私案した風土の丘です。プラスワンという言葉がウォークアブルにあったので、プラスワンといえば風土の丘ではと思いました。現在実施しているパブリックコメントでしっかり意見を出していこうと思います。そういうことを進めていこうとしたときに、さっきの話に戻りますけれども、自治会の人たちに話に行っても個人的に難しいところがあるので、地域の住民たちの話を集約できる構造を作ってほしいと思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。今のはご提言ということで、直接このウォークアブルの資料とは全く違う話やと思います。ほかいかがでしょうか。何点か気になるのですが、このウォークアブルもバリューフォーマネーの解析をしておいた方が良いと思います。アンケート結果はお客に対しての結果で、ここでいったいどういう商活動が成立するのかなど、担い手側の話が一切出てこない。先ほどの話の続きになりますが、結局色んな予算化をすると、予算が終わった段階で終わってしまうのでいかに自走するのかということを見ると、このウォークアブルもまだ自走できるエリアである可能性があるということで設定されたエリアだと思います。駅に近くて集まりやすく、満遍なくニュータウンの中を歩きやすくするという、ある意味公共事業としては成立しますけれども、民の活動として、あるいは担い手の活動として市場経済の中で成立するかということと成立しない。ここだとまだ可能性があるという形で検討されているのだろうと思っています。そういうことからいくと、

経営的に成立するのか、例えば、パークレットを自ら設置してそれを補助金なしに数年間経営できますみたいな経営母体みたいな発掘につながっていつているのか、単なるイベントで終わってしまっているのか、そのあたりを踏み込んで解析しておく必要がある。たいていの場合、なかなか成立しないというということが実態で基本的にはうまくいかない。

(事務局：塚本)

金剛地区再生室の塚本です。ビジョンをさきほどご説明させていただいたとおり、3つのステップで考えているということで、ステップ1をご覧ください。シーンの可視化というところをしっかりとやっていきたいということでまずはビジョンのこと、みんなでめざしている姿っていうことをいかに知っていただいて、まちづくりに関心を持っていただくことを第一段階に考えております。2段階目、3段階目のところには、自立化という言葉であったりとか日常化という言葉を入れさせていただいているとおり、どうしても行政がやる場合というのは予算の切れ目というところがありますので、いかにこれを日常に落とし込んでいくのかということを我々もしっかり意識しながらやっていきたいと考えているところです。

ふれあい大通りの前って現状で言うと、通り沿いには店舗もなくて、基本的には住宅地の真ん中に道路があるだけですけども、そこだからこそできることをいかにやっていくのかなと思っております。今回推進チームを立ち上げる際にも自分たちの力でできることで、もし費用がかかるのであればその費用を回収することも含めて企画を考えてくださいということを繰り返し申し上げてきました。ですので、皆さんがそういった意識で進めていただくことで、今後自立した取組ということが定着してくれるんじゃないかなということと、あとマネタイズのところについては、飲食関係の店舗に関しては割と売上げが良かったと聞いておりますので、今後も社会実験とかを繰り返しながらそのあたりしっかり見ていきたいと考えています。

(増田会長)

それはステップバイステップの話ではなくて、最初から自立化というのを目標にして展開しないと、たぶんわっくカフェにしろ、マルシェにしろ、かなりそういう意識をもって活動をスタートしたと思います。マルシェなんかでも少し拡大していつているのはある意味出てこられた農家の方にとって、一定の経済的メリットがあると、そうでなければ継続しないし、拡大もしないと思います。

だから、最初からかなり意識して活動しないと、単なるイベントで終わってしまう。だから、本当の意味で自立できるのか、自走できるのかっていうところを意識していくことが重要。これ、大学の連携も同じで、大学の学生が色んなことをやってくれていますけども、これもゼミで一定予算化できるからやりますでは困るわけで、むしろイベントの中でどういう自立性があるのかということ意識しながら、展開していかないと、そうでないと全部税金におんぶに抱っこになっていく。

それでは回らないというのは過去の実態でわかっている。先ほど、小野先生からも発言のあったまち協がNPO法人化しているという動きがあると同時に、色んなところでまち協なりNPOでは甘えが出るので、まちづくり株式会社という形で展開しているという事例が増えてきている。そうでないと、要するに継続しないということです。市が取り組んでいる取組4つともその辺の視点がかかなり大事と思います。

(事務局：塚本)

ありがとうございます。

(増田会長)

他何かございますでしょうか。いかがでしょうか。ウォーカブルを見ると、やっぱり空間提案というのですかね、ビジョンの中にそればかりが出てきてると思います。そうではなくて、これどうやって回していくかという実現に向けた取組の中にバリューフォーマネーみたいな話が入ってなくて、本当にこんな形でこんな歩きやすいまちにして魅力的にしますと言っても、経営的に成立しなかったら、実現できないので、その辺の話がかなりいるのではないかと思います。

(占部委員)

先ほど高辺台の話が出ましたけども、みなさん自分が住んでいる地域を中心に思いますから、高辺台を入れてほしい気持ちもわかる。私は藤沢台に住んでいますが、藤沢台も入れてほしいと思います。ウォーカブルについて、私の生まれは寺池台なので、寺池台のことはよくわかるし、金剛駅を起点としたこともわかるのですが、ウォーカブルっていうのに片道を上がっただけっていうのは、どうかなと思っています。寺池台まで行くコースを考えていたり、高辺台まで行くコースを考えていたり、1 kmのコース、3 kmのコース、5 kmのコースや寺池公園の中をずっと回れるようなコースっていうのを考えてほしいっていうことと、パブリックコメントで出てくると思うのですが、社会実験の日にバスだけ通して車だけ通行禁止にしましたよね、あれやっぱり良くないなと思っていて、実際現実的に苦情が出たのではないかと思います。実際僕もあそこを何度も通って、通行止めにされて、バスだけ通るって言われて、これウォーカブルの社会実験って言っても、社会実験になったのかなと思うことがすごくあって、やっぱり良くないなと思って、まちが止まったなとすごく思っていて、まちをどんどん人が動くようにしないといけないのに、結局車を止めてしまっていたので、良くないなと思いました。

(増田会長)

その辺は、ウォーカブルビジョンの目標6ページ目に書いてある居心地が良く歩きたくなるとか歩くのが楽しいとか、そうではないんですよね、基本的には、ウォーカブルシティってどちらかと言うと、集客拠点、賑わい拠点を作ってそこにどう人が行けるかというような話であって、さきほど吉村委員、占部委員からもありましたようにまち全体がどうやって歩きやすいまちに変えていくのかっていうそういうビジョンとはまったく違います。その辺きっちり違いを明示して、なぜこのビジョン作りをしているのかというね、これ極端なことを言うと、金剛駅周辺まちなかというところにとっても意味があって、金剛地区全体のあるいはニュータウン全体のあるいは富田林市全体のウォーカブルビジョンを作っているわけではないということです。その辺のことをきっちり市民の方々に伝えないと、予算をつけやすいまちにどんどんなっていくといいと、しかしなかなか市域全域では展開できないというところから、ビジョンが生まれてきているので、その辺の限界性とあともう一つはきっちりとした目標を書かないと、例えば、タイトルから見ると、ウォーカブルビ

ジョンというタイトルについて今みたいにいっぱい議論が出てくると思います。

それはなぜできないのかというところをきっちり説明しとかなないと、一般の方々の期待と出てきたビジョンとの齟齬が発生することになる。それをきっちり成立させるためには基本的には経済的活動を伴ってそれを持続できるようにと言うことが大きな意味をもっていますというところから話をスタートしないと、そこを度外視してまちなかウォークブルシティというところで行くと、やっぱり一般の認識とずれがあるということやと思います。その辺なかなか日本のビジョン作りって正直の目標のところと、非常にまろやかに全体論との目標のところがね、非常に不明確になっています。

(吉村委員)

僕はこれを見たときに、駅前再開発事業かなってイメージをもちました。そこからさきほどの僕の発言につながるんですが、高辺台から見たらそちらには行かずに、エコールロゼの方に行くっていうことが多いです。ウォークブルであればもっと別のルート作りをした方が良く、僕らがウォーキングのコースを作る時には、目標を設定しながら作るのもっと人が動くようになっている。この前社会実験やっていたけども、僕は本当のまちづくりということであれば健康づくり、ウォーキング、それとは別に駅前整備があると思っています。そういう風に考えていかないと、どうもつながらないと思います。

(増田会長)

本当は交通政策だと思います。歩くという行為をいれた公共交通ということはどう考えるのかというのが、先ほどお二方からご提案いただいた話で、まちなかウォークブルとはちょっと違うということのをきっちり説明しないといけないと思う。パブリックコメントでそういった意見が出てきたときには、市としてきっちりここでやっている意味を説明しきらないと色々な問題が出てくると思う。これからも高齢化が進み、免許返納をする方が増え、健康問題の中で、やっぱりまちなかが安全で安心して歩けるということは非常に重要な要素ですから、どちらかというところこれはウォークブルビジョンではなくて、公共交通政策みたいなのが担うと思います。はい、ありがとうございます。他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

やっぱり行政計画では何となくバラ色の目標像みたいなことを書くのですが、そういう時代じゃなくなってきたので、やっぱりきっちり目標を明確に設定してそれに向けてこういうことをやっていますみたいなことを説明しきらないと、色々な矛盾が発生してくる時代になっていると思います。耳に心地よすぎて、シーンが伝わらなくなることがあるんだろうと思いますけども。他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。あと2つパンフレットを置いていただいていますけども、説明はなく、見ておけば良いでしょうか。

(友田委員)

3月9日にプレーパークを開催しまして、下の寺池テラスまで使ってやりましょうとのご紹介です。

(増田会長)

これは有料ですか。

(友田委員)

無料です。ただ、保険料だけ子ども100円いただいています。

(増田会長)

それで本当にできるかどうかなんです。私が今関わっている大蓮公園では、ボーイスカウトがロープのつり橋みたいなものを作って、子どもが歩けるような遊びなんですけども、保険代だけではなくて実費相当の費用を払ってもらって運営している。そうしないと、持ち出しばかりやと、継続できなくなるので。その辺のことも大事やと思います。

(占部委員)

こういう材料費ってどこから出ているんですか。

(友田委員)

今は大阪府の都市整備推進センターから補助金が出ていて、3年間だけなんですけども、そこから材料費は出ている。確かに言われるように今年度で補助金が終わるのでどうするかっていう課題があるので考えていかないといけません。

(増田会長)

ある意味受益者負担みたいところが、原則的な形で動いていかないと、なかなか自走できないという形やと思います。はい、ありがとうございます。他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、今日予定しておりました議題について宿題はあると思いますが、こなせたと思います。次回楽しみにということで、それとあとは情報としてここで意見交換するのも一つですし、ちゃんとパブリックコメントがあればきちんと意見を提出していただけるということが大事やと思います。どうしてもだんだんパブリックコメントに慣れきってしまって、意見出てこないということがパブリックコメントの限界なんで、できたら思われたことはきっちり、パブリックコメントの機会に言っていただけることが大事やと思います。またそれに対してどう説明できる能力を高めていくかが非常に大事やと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。どうもありがとうございました。司会を事務局の方に返します。

(事務局：塚本)

はい、本日は金剛地区の再生・活性化に向けまして活発なご議論、ご助言、宿題も含めましてありがとうございます。また、増田会長におかれましては円滑な議事進行を本当にありがとうございました。それでは本日の会議はこれにて終了させていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。